

# 千葉県演習林産材質腐朽菌目録

文部教官 佐々木敏雄

Toshio SASAKI

Wood-Rotting Fungi collected in the  
Tokyo University Forest in Chiba Prefecture

## 目 次

I 緒言	181	IV 摘要	191
II 材質腐朽菌目録	182	Résumé	191
III 考察	190		

## I 緒 言

東京大学農学部附属千葉県演習林は君津・安房の両郡にまたがり、清澄を中心として房総国界山脈の南北両斜面を占め、面積約 2,200 ha に達する。清澄に於ける平均気温は年 13.1°C, 4~11 月は月平均 10°C 以上を示し、平均降水量は年 2,368 mm である。即ち本演習林は暖帯の北限に近く存在し、多湿であると云うことが出来る。故に極盛相の森林としてはウラジロガシ=サカキ群集 (*Cyclobalanopsis stenophylla-Sakakia ocknacea* association) が存在し、高木としてウラジロガシ、スダシイ、アカガシ等が存在し、所により之にモミ、ツガ、ケヤキ等を交え亜高木としてサカキ、シキミ、草本としてツルアリドオシ、ホソバカナワラビ、ヤブコオジ等を持つ森林が存在する。

筆者は 1946 年以來、約 10 回に亘つて本演習林の菌類調査を行い、資料の蒐集を行つてきたが、材質腐朽菌に関するものに就て取纏め得たので、ここに報告を行つた。一部には材質腐朽性の無い種類も含まれており、又材質腐朽性のあるものでも子囊菌類 (*Ascomycetes*) 及びマツタケ科 (*Agaricaceae*) に属するものはこれを除外したが、これは分類学的に比較的近い種類を取纏めた結果である。尚、興味ある種類に就ては若干説明を加えた。資料としては筆者の採集品のほか、当研究室の先輩故平間雅男・伊藤達次郎・青島清雄・千葉修・大橋弘瑞の諸氏の採集品を参考とした。ここに記して厚く謝意を表する。

これらの採集品は総て当研究室に保存してある。

本研究は猪熊泰三教授御指導の下に行われたものであり、厚く感謝の意を表する。又、常に御援助・御教示を戴いている林業試験場保護部長今関六也氏、国立博物館の小林義雄氏、当研究室の倉田悟助教授、及び直接調査に助力を与えられた高原末基助教授・川名明氏・糟谷由助氏に対し謝意を表する次第である。

## II 材質腐朽菌目録

Fam. *Dacryomycetaceae* ベニキクラゲ科

1. *Dacryomyces aurantius* (Schw.) Farlow アカキクラゲ  
モミ枯枝 (堂沢), モミ落枝 (仲ノ沢頭)
2. *D. roseotinctus* Lloyd モモイロダクリオキン  
モミ枯枝 (郷台)
3. *D. San-Augustinii* Y. Kobayashi, Sci. Rept. Tokyo Bunrika Daigaku, Sect. B  
70 : 122 (1939) イオートルダクリオキン  
広葉樹落枝 (浅間山)

本菌は小林により南硫黄島で採集されたもので他の産地は未詳であるが、多分熱帯及び亜熱帯に分布するものと思われる。本演習林を特徴づける南方系の菌の一つであらう。伊豆半島及び紀伊半島等にも分布すると思われるが将来の研究にまたれる。

4. *Ditiola nuda* Berk. et Br.  
モミ落枝 (堂沢)
5. *Guepinia spathularia* (Schw.) Fr. ツノマタタケ  
広葉樹落枝 (妙見山), スギ用材 (南沢)
6. *Calocera palmata* (Schum.) Fr. モミヂフノリタケ  
樹種不明落枝 (浅間山)

Fam. *Tremellaceae* シロキクラゲ科

7. *Exidia granulosa* (Bull.) Fr.  
広葉樹枯幹 (四郎治沢), スダシイ枯幹 (妙見山)
8. *Tremella foliacea* (Pers.) Fr. ハナビラニカワタケ  
イロハカエデ切株 (野獣園)
9. *T. samoensis* Lloyd, Myc. Writ. 5 : 875 (1919); Kobayashi, Sci. Rept. Tokyo  
Bunrika Daigaku, Sect. B. No. 64 : 9 (1939) キンハナビラタケ  
スダシイ倒木 (妙見山), スダシイ落枝 (浅間山)

本菌に就ては小林の報告があるが、主として熱帯に産するため余り研究が行われておらない。分布はサモア、フィリピン、支那 (福建・雲南) に及び、他に一変種を小笠原に産する。尙、小林の報告に日本南部及びミクロネシアに於ては近き将来発見されるであらうとされており、清澄で採集されたことは分布の北限地として興味深いものである。

Fam. *Auriculariaceae* キクラゲ科

10. *Auricularia Auricula-Judae* (Bull.) Schröt. キクラゲ  
 広葉樹材 (林内各所)
11. *A. polytricha* (Mont.) Sacc. アラゲキクラゲ  
 広葉樹材 (林内各所)

**Fam. Corticiaceae** コウヤクタケ科

12. *Aleurodiscus amorphus* (Pers.) Rabenh. アカコウヤクタケ  
 モミ枯枝 (袖ノ木沢)
13. *Corticium caeruleum* (Schrad.) Fr. アイコウヤクタケ  
 広葉樹枯幹 (袖ノ木沢)
14. *Peniophora Ravenelii* Cooke, Grevillea 8 : 21 (1879) : Burt, Ann. Mo. Bot. Gard.  
 12 : 269 (1925) ; T. Ito, Bot. Mag. Tokyo 43 : 517 (1929) クリームカワタケ  
 広葉樹落枝 (荒檜沢), 広葉樹落枝 (浅間山)

本菌は北米及びグアム島に分布し本邦にも広く産するものようである。安田<sup>1)</sup>によつて報告されたウスベニウロコタケ (*Stereum roseum* Yasuda) 及び北米の *Peniophora Roumeguerii* Bres. は本菌と極めて類似した形態を有しており、これら三菌に関しては別報に報告する予定である。

15. *Stereum annosum* Berk. et Br. オオカクウロコタケ  
 アカガシ倒木 (妙見山)
16. *S. fasciatum* (Schw.) Fr. チャウロコタケ  
 広葉樹倒木 (妙見山), アカガシ倒木 (浅間山)
17. *S. fuscum* Schrad. ex Quéf. ウラジロウロコタケ  
 アカマツ枯幹 (三石山), アカマツ倒木 (鶏毛山)
18. *S. hirsutum* (Willd.) Fr. キウロコタケ  
 コナラ落枝 (荒檜沢)
19. *S. roseo-carneum* (Schw.) Fr. スミレウロコタケ  
 広葉樹枯枝 (堂沢)
20. *S. sanguinolentum* Alb. et Schw. チウロコタケモドキ  
 アカマツ枯枝 (四郎治), アカマツ枯幹 (三石山)
21. *S. spadiceum* Fr. チウロコタケ  
 広葉樹倒木 (妙見山), コナラ枯枝 (鳥居沢頭), コナラ落枝 (檜ノ木台), 広葉樹落枝 (荒檜沢)

1) A. Yasuda : Bot. Mag. Tokyo 36 : 41 (1922)

22. *S. spectabile* Kl. モミヂウロコタケ  
アカガシ倒木(妙見山), アカガシ枯幹(荒樫), ウラジロガシ枯枝(野獣園)
23. *S. subpileatum* Berk. et Curt. コカサウロコタケ  
アカガシ倒木(妙見山), アカガシ生立木(龜ノ沢頭), アカガシ生立木(妙見山), スダシイ生立木(三石山)
24. *S. umbrinum* Berk. et Curt. カミウロコタケ  
広葉樹枯枝(濁川)
25. *S. vibrans* Berk. et Curt. サビウロコタケ  
広葉樹切株(硯石)
26. *Mycobonia papyrina* Pat. オロシタケ  
ナツグミ枯枝(野獣園)
27. *Hymenochaete arida* (Karst.) Sacc. シブウロコタケ  
広葉樹枯枝(四郎治), ウラジロガシ枯枝(野獣園), 広葉樹落枝(浅間山)
28. *H. Mougeotii* (Fr.) Cooke アカウロコタケ  
広葉樹切株(檜ノ木台)
29. *H. Sallei* Berk. et Curt. コガネウロコタケ  
アラカン倒木(櫻ヶ尾), 広葉樹落枝(妙見山), 広葉樹落枝(檜ノ木台)
30. *H. unicolor* Berk. et Curt., Jour. Linn. Soc. Bot. 10: 335 (1868); Imazeki, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2: 16 (1940) アツミヒビウロコタケ  
マメザクラ枯枝(鳥居沢頭)

本菌は西インド諸島, 南米に産する南方系の菌で, 今関によれば本邦に於ては小笠原及び東京の高尾山に見出されている。筆者は現在迄に本演習林及び伊豆半島に於て採集したが, いづれもサクラ類(*Prunus spp.*)の枯枝上で採集したものである。本演習林を特徴づける南方系の菌である。

31. *H. Yasudai* Imaz. マツノタバコウロコタケ  
針葉樹材(林内各所)

**Fam. Hydnaceae** ハリタケ科

32. *Radulum orbiculare* Fr.  
サクラの一種落枝(郷台)
33. *Lopharia mirabilis* (Berk.) Pat., Ess. Tax. 74 (1900); Imazeki, Jour. Jap. Bot. 15: 307 (1939)  
Syn.: *Licentia yao-chanica* Pilät, Ann. Myc. 38: 66 (1940); Syn. nov.

クシノハシワタケ

ニワトコ枯幹(砂沢), 広葉樹落枝(中ノ沢)

本菌は本邦各地に分布し, 広葉樹材の白色朽を起因するが被害は大きくない。分布は支那・ジャバ・セイロン・インドに及び, 東亜の熱帯及び暖帯に広く産するが研究は少い。Pilát が中支の標本に基いて発表した一新属・一新種の *Licentia yao-chanica* Pilát は, 記載・図版及び写真からして本菌と異らない。なお, アフリカのコンゴより報告された *Lopharia lirellosa* とは type specimen を比較する必要がある。

34. *Sieckherinum ochraceum* (Pers.) Miller ニクハリタケ

ヤマザクラ枯枝(札郷), スダシイ落枝(本沢)

**Fam. Meruliaceae シワタケ科**

35. *Phlebia strigoso-zonata* (Schw.) Bres. シワウロコタケ

広葉樹落枝(天神下)

36. *Merulius castaneus* Lloyd オオシワタケ

アカマツ倒木(札郷), ツガ枯枝(袖ノ木沢), アカマツ枯枝(西ノ沢頭)

37. *M. cereum* Fr.

広葉樹落枝(浅間山)

**Fam. Hypoaceae サルノコシカケ科**

38. *Poria versipora* (Pers.) Romell アナタケ

アカガシ倒木(妙見山)

36. *Trametes albida* (Fr.) Bourd. et Galz. ヒメシロアミタケ

針葉樹材, 稀に広葉樹材(林内各所)

40. *T. Dickinsii* Berk. ホウロクタケ

広葉樹倒木(堂沢), スギ用材(郷台)

41. *T. gibbosa* Pers. ex Fr. オオチリメンタケ

フサザクラ枯幹(相ノ沢)

42. *T. Kusanoana* Imaz. オオミダレアミタケ

ソメイヨシノ枯幹(切通), コナラ枯幹(郷田倉), アカマツ切株(本沢)

43. *T. malicola* Berk. ニオイヒメアミタケ

イロメカエデ倒木(野獣園), 広葉樹倒木(堂沢)

44. *T. sanguinea* (L. ex Fr.) Imaz. ヒイロタケ

針葉樹材及び広葉樹材(林内各所)

45. *T. sensitivus* Yasuda, Bot. Mag. Tokyo 32: 111 (1918) アカゾメアミタケ

モミ根部(仁ノ沢), モミ切株(瀬場沢頭), 針葉樹切株(楢ノ木台)

本菌は極めて腐朽した針葉樹の枯幹・切株又は根部等に生じ, その腐朽材は斑点状白色朽を呈している。安田によつて発表された本邦特産の菌で, 子実体が殆ど背着性をなすこと, 及びKOHにより赤色に変化すること等の特徴を有してゐる。この変色は子実体に KOH の溶液をつけると直ちに赤変し, 2~3 分後には退色して黄褐色となるものである。本邦には広く分布するものの如くであるが, 研究は殆ど行われておらない。

46. *T. vittata* (Berk.) Lloyd モンパタケ  
アカマツ枯幹(粟ヶ沢), アカマツ枯幹(仲ノ沢)
47. *Lenzites beulina* L. ex Fr. カイガラタケ  
広葉樹材(林内各所)
48. *Gloeophyllum abietinum* (Bull. ex Fr.) Karst. コゲイロカイガラタケ  
針葉樹材(林内各所)
49. *G. subferrugineum* (Berk.) Bond. et Sing. ヒロハノキカイガラタケ  
針葉樹材(林内各所)
50. *G. trabeum* (Pers. ex Fr.) Murr. キチリメンタケ  
針葉樹材(林内各所)
51. *Daedaleopsis conchiformis* Imaz. シジミアミタケ  
広葉樹枯枝(濁川), 広葉樹落枝(柚ノ木沢)
52. *D. nipponica* Imaz. ミイロアミタケ  
ヤマザクラ枯枝(清澄), 広葉樹倒木(荒檜沢)
53. *D. styracina* (P. Henn. et Shirai) Imaz. エゴノキタケ  
エゴノキ落枝(荒檜沢), エゴノキ落枝(堂沢), エゴノキ枯枝(札郷)
54. *D. tricolor* (Bull. ex Fr.) Bond. et Sing. チャカイガラタケ  
ソメイヨシノ枯枝(切通), ヤマザクラ枯幹(郷台), コナラ枯枝(瀬場沢頭)
55. *Irpex lacteus* Fr. ウスバタケ  
サクラの一種伐幹(本沢), 広葉樹落枝(野獣園),
56. *I. parvulus* Yasuda コゴメウスバタケ  
サカキ枯枝(粟ヶ沢), 広葉樹落枝(池ノ沢頭)
57. *Coriolus consors* (Berk.) Imaz. ニクウスバタケ  
広葉樹切株(清澄), 広葉樹枯枝(本沢)
58. *C. hirsutus* (Mulf. ex Fr.) Quél. アラゲカワラタケ  
広葉樹材(林内各所)

59. *C. neaniscus* (Berk.) Imaz., Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 80 (1943) ウラギンタケ  
アカガシ生立木 (妙見山), スダシイ倒木 (妙見山), 広葉樹枯幹 (檜ノ木台)

本菌は一般に広葉樹の材を侵し白色朽を起因するが、時には生立木をも侵すことがあり、心材腐朽菌として注意すべきものである。本邦には本州・四国・九州に広く分布している。他の *Coriolus* 属菌と異り本菌の傘肉は褐色を呈する。而しこの色調はキコブタチ族 (*Mucronoporeae*) の色調とは異なるものの如くである。又下皮が明瞭に認められることなどよりして本菌は Murrill のたてた *Corioloopsis* 属に入れられるべきものと思われるが、一応従来のまゝとし将来の研究を待つ次第である。

60. *C. pinsitus* (Fr.) Pat. フルイカワラタケ  
広葉樹落枝 (相ノ沢)
61. *C. polyzonus* (Pers. ex Quél.) Imaz. キツネカワラタケ  
スギ切株 (仁ノ沢)
62. *C. versicolor* (L. ex Fr.) Quél. カワラタケ  
広葉樹材, 稀に針葉樹材 (林内各所)
63. *Hirschioporus abietinus* (Fr.) Donk シハイタケ  
針葉樹 (主としてアカマツ) 材 (林内各所)
64. *H. fusco-violaceus* (Ehr. ex Fr.) Donk ウスバシハイタケ  
針葉樹 (主としてモミ) 材 (林内各所)
65. *H. versatilis* (Berk.) Imaz. シラゲタケ  
クリ枯幹 (濁川)
66. *Hapalopilus cuneatus* (Murr.) Imaz. シロヒメカイメンタケ  
スギ土木用材 (本沢)
67. *Tyromyces caesius* (Schrad. ex Fr.) Murr. アオゾメタケ  
ヒメウツギ枯幹 (鍛冶坂), 針葉樹落枝 (後沢)
68. *T. lacteus* (Fr.) Murr. オシロイタケ  
スギ用材 (南沢), スギ用材 (本沢)
69. *T. sambuceus* (Lloyd) Imaz. シロカイメンタケ  
スダシイ枯幹 (妙見山), サクラ生立木 (野獣園)
70. *Bjerkandera adusta* (Willd. ex Fr.) Karst. ヤケイロタケ  
アカメガシワ倒木 (堂沢), 広葉樹倒木 (野獣園)
71. *Gloeoporus amorphus* (Fr.) Kill. ウラベニタケ  
アカマツ材 (林内各所)

72. *G. dichrous* (Fr.) Bres. エビウラタケ  
広葉樹倒木 (野獣園)
73. *Laetiporus sulphureus* Bull. ex Fr. マスタケ  
スダシイ枯幹 (妙見山), コナラ枯幹 (安野)
74. *Porodisculus pendulus* (Schw.) Murr. スルデタケ  
コナラ落枝 (四方木), 広葉樹枯幹 (四郎治沢)
75. *Fomitopsis cinerea* (Torr.) Imaz. シイサルノコシカケ  
スダシイ材 (林内各所)
76. *F. insularis* (Murr.) Imaz. レングワタケ  
モミ枯枝 (大仙場), モミ倒木 (荒檜)
77. *F. pinicola* (Schw. ex Fr.) Karst. ツガサルノコシカケ  
針葉樹材 (林内各所)
78. *F. pubertatis* (Lloyd) Imaz., Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 92 (1943) ホウネンタケ  
アカガシ生立木 (奥ノ院), 広葉樹倒木 (下馬不動)
- 本菌は安田の送附した標本にもとづいて Lloyd が発表した種類であるが, その後オーストラリア, タスマニア, ブラジル等で報告されている。本邦には各地に分布しており, 世界の亜熱帯及び暖帯には広く分布すると思われる。*Fomitopsis* 属が多型的な内容を有していることは今関も指摘したところであるが, 本菌も傘肉の色, 無皮無殻な傘の表面, 小型で多少色のある孢子等の性質から *Fomitopsis* 属中の特徴ある種類である。広葉樹材の海線状白色朽を起因するが, 時には生立木をも侵し, 重要な腐朽菌である。
79. *F. ulmaria* (Sow.) Bond. et Sing., Ann. Myc. 39: 55 (1941) オオシロサルノコシカケスギ生立木 (清澄)
- 逸見<sup>1)</sup>等は世界各地に広く分布して主としてニレ類を腐朽させる *F. ulmaria* 菌と, 本邦のスギの心材腐朽を起因する菌とを同一種であるとした。而しニレ類に生ずる菌は肉眼的に子実層が傘肉と同色を呈するが, スギの菌は子実層が赤味おびる等の点に於て異つている。一方スギの腐朽材の腐朽型と全く同じ腐朽型を呈するといわれている北米の *Taxodium distichum* の病原菌は, 古くは *Fomes geotropus* Cooke であるとされてきたが, 最近 Boyce<sup>2)</sup>はこの説を否定している。これらの点からスギ心材腐朽の病原菌は不確定の状態にあるが, 著明な菌であるので従来の学名のまゝ報告に加えた。
80. *Favolus alveolarius* Besg. ex Fr. ハチノスタケ

1) T. Hemmi, S. Hirayama et T. Nojima; Bot. Mag. Tokyo 43: 657 (1929)

2) J. S. Boyce: Forest pathology 413 (1948)

広葉樹倒木 (相ノ沢)

81. *F. arcularius* (Batsch ex Fr.) Ames アミスギタケ  
 広葉樹材 (林内各所)
82. *Microporus flabelliformis* (Kl.) Pat. ウチワタケ  
 広葉樹材 (林内各所)
83. *M. subaffinis* (Lloyd) Imaz. ツヤウチワタケモドキ  
 スグシイ枯幹 (三石山)
84. *Ganoderma neo-japonicum* Imaz. マゴジヤクシ  
 モミ根部 (濁川), スギ切株 (相ノ沢頭)
85. *Elfvigia applanata* (Pers.) Karst. コフキササルノコシカケ  
 広葉樹切株 (東ノ沢), 広葉樹切株 (本沢), タブ生立木 (天津), ニセアカシヤ切株 (天津)
86. *Hydnochaete tabacinoidea* (Yasuda ex Lloyd) Imaz. コガネウスバタケ  
 広葉樹落枝 (三石山), 広葉樹落枝 (石尊山)
87. *Cyclomyces tabacinus* (Monnt.) Pat. キヌハダタケ  
 アカガシ生立木 (妙見山), 広葉樹切株 (野獣園)
88. *Phellinus gilvodes* (Lloyd) Imaz. ネンドタケモドキ  
 広葉樹落枝 (檜ノ木台), 広葉樹落枝 (濁川)
89. *P. hamatus* (Corn.) Imaz. ツリバリサルノコシカケ  
 スグシイ生立木 (浅間山)
90. *P. Hartigii* (All.) Imaz. モミサルノコシカケ  
 モミ生立木 (林内各所)
91. *P. robustus* (Karst.) Bond. et Sing. コブサルノコシカケ  
 サクラの一種切株 (郷台)
92. *Inonotus cicularis* (Bull. ex Fr.) Karst. カワウソタケ  
 ソメイヨシノ枯幹 (清澄), ヤマザクラ枯幹 (郷田倉)
93. *Cryptoderma citrinum* Imaz. ダイダイタケ  
 広葉樹材 (林内各所)
94. *C. lonicerinum* (Bond.) Imaz., Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 107 (1943)  
 Syn. *Fomes ajazi* Hussain, Mycologia 44: 823 (1952), Syn. nov. ウツギサルノ  
 コシカケ  
 ハコネウツギ材 (林内各所)

中央アジアに於てニンドウ属 (*Lonicera*) 植物上で採集され発表された本菌は, 本邦に於ては

広くハコネウツギ属 (*Weigela*) 植物上に見出されている。この様に宿主植物が限られていることは注目すべき性質である。最近パキスタンより報告された *Fomes ajazi* は生態的に又形態的に本菌と区別出来ないので異名として取扱つた。アジアには広く分布しているものと思われる。

95. *C. substygium* (Berk. et Br.) Imaz., Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 107 (1943);  
Bull. Gov. Forest Exp. Stat. 57: 102 (1952) キヌハダタケモドキ  
コナラ櫛木(シイタケ栽培用)(郷台)

本菌は東亜熱帯に広く分布し、外観キヌハダタケ (*Cyclomyces tabacinus*) と極めて類似するが、傘の縦断面を検すれば容易に区別される。今関は本菌が九州迄北上して分布することを指摘しているが、筆者の調査では更に伊豆半島・房総半島に及んでいる。本演習林を特徴づける南方系の菌の代表的なものである。

96. *Omnia Cumingii* (Berk.) Imaz. サジタケ  
広葉樹切株(東ノ沢), 広葉樹切株(檜ノ木台)

97. *Cryptoporus volvatus* (Peck) Hubbard ヒトクチタケ  
アカマツ枯幹(札郷)

**Fam. Cyphellaceae フウリタケ科**

98. *Cyphella muscigena* (Pers.) Fr. コケフウリタケ  
蘚類上(鳥居沢)

99. *Solenia villosa* Fr. ケクダケ  
広葉樹切株(野獣園)

**Fam. Fistulinaceae カンゾウタケ科**

100. *Fistulina hepatica* (Huds.) Fr. カンゾウタケ  
スダシイ生立木(妙見山), スダシイ根部(南沢), スダシイ枯幹(浅間山)

### Ⅲ 考 察

気候温暖で湿度の高い我国は菌類の生活に適していることは云うまでもない。本演習林は暖帯林の北限に近く存在するが湿度が高く、その点特に南方系菌類の生活に適している。今上記目録から南方系の菌類を取り出せば次く如くである。

イオートーダクリオキン・キンハナピラタケ・モミヂウロコタケ・コガネウロコタケ・アツミヒビウロコタケ・クシノハシワタケ・オオミダレミアタケ・モンパタケ・ヒロハノキカイガラタケ・ウラギンタケ・シラダケ・シイサルノコシカケ・ホウネンタケ・ウチワタケ・ツヤウチワタケモドキ・キヌハダタケ・ツリバリサルノコシカケ・キヌハダタケモドキ・サジタケ。

これらのうちコガネウロコタケ・クシノハシワタケ・ヒロハノキカイガラタケ・ウラギンタケ・

シラダタケ・ホウネンタケ・ウチワタケ・サジタケは分布が更に北に及び、東北地方又は北海道に迄分布している。而し他の菌は宿主植物の影響もあり、概ね関東地方に分布の北限を有するもので、特にイオートーダクリオキン・キンハナピラタケ・モミヂウロコタケ・キヌハダタケ・キヌハダタケモドキは本演習林を北限としているものの如くである。

#### IV 摘 要

東京大学農学部附属千葉演習林に於ける材質腐朽菌類の調査を行い、学名の明らかとなつたものに就て目録を作成した。目録には分類学的見地から材質腐朽性を持つ種類でも子囊菌類及マツタケ科の種類は除外し、又材質腐朽性のない種類でも近縁な科のものは含めた。これらは9科・47属・100種に互つている。

本演習林は暖帯の北限に近く存在するが湿度が高いため、特に南方系の菌類の生活に適している。調査の結果分布の北限に近いと思われる種類にはアツミヒビウロコタケ・オオミダレアミタケ・モンパタケ・シイサルノコシカケ・ツヤウチワタケモドキ・ツリバリサルノコシカケがあり更にイオートーダクリオキン・キンハナピラタケ・モミヂウロコタケ・キヌハダタケ・キヌハダタケモドキは本演習林をもつて分布の北限とするものの如くである。

#### Résumé

The wood-rotting fungi are not distinctly grouped in classification, but most of them belong to *Corticaceae*, *Pleurostictaceae* and its related families. The list of fungi included herein contains all identified species belonging to *Dacryomycetaceae*, *Tremellaceae*, *Auriculariaceae*, *Corticaceae*, *Hydnaceae*, *Meruliaceae*, *Polyporaceae*, *Cyphellaceae* and *Fistulinaceae*, collected in the Tokyo University Forest in Chiba Pref. Up to the present time, these fungi are 100 species belonging to 47 different genera.

This forest is situated on the pacific coast of Honsyu, near the northern limit of the warm temperate forest climax, and mostly composed of *Cyclobalanopsis stenophylla-Sakakia ochracea* association. The mean rain-fall is 2368 mm per year, and the humidity is high compared with the adjacent districts. On account of such environmental conditions, the fungous flora of this forest appears on the whole to have many southern species. These southern species are as follows.

*Dacrymyces San-Augustinii* Y. Kobayashi, *Tremella samoensis* Lloyd, *Stereum spectabile* Kl., *Hymenochaete Sallii* Berk. et Curt., *H. unicolor* Berk. et Curt., *Lopharia mirabilis* (Berk.) Pat., *Trametes Kusanoi* Imaz., *T. vittata* (Berk.) Lloyd, *Gloeophyllum subferrugineum* Bond. et Sing., *Coriolus neanicus* (Berk.) Imaz., *Hirschioporus versatilis* (Berk.) Imaz., *Fomitopsis cinerea* (Torr.) Imaz., *F. pubertatis* Lloyd, *Microporus flabelliformis* (Kl.) Pat., *M. subaffinis* (Lloyd) Pat., *Cyclomyces tabacinus* (Mont.) Pat., *Phellinus hamatus* (Corn.)

Imaz., *Cryptoderma substygium* (Berk. et Br.) Imaz., *Onnia Cumingii* (Berk.) Imaz.

Among them, *Dacrymyces San-Augustinii*, *Tremella samoensis*, *Stereum spectabile*, *Cyclomyces tabacinus*, *Cryptoderma substygium* have their northernmost habitats in this forest.

In this paper, judging from the descriptions and photographs, the author reduced *Licentia yao-chanica* Pilat to the synonym of *Lopharia mirabilis* (Berk.) Pat., and *Fomes ajazi* Hussain to *Cryptoderma lonicerinum* (Bond.) Imaz.